2024入学生用　シラバス目次

経済メジャー科目

授業科目	単位	開講年	実施時期	基盤科目	受講可能年次	教員免許該当科目	担当教員	ページ
経済数学	2	6	前	〇	1年以上	公民	中本・徳丸	1
統計学	2	6	前	〇	1年以上	公民	中本・徳丸	2
グローバルスタディ入門	2	6	後		1年以上	公民	デイ	3
西洋経済史	2	6	後		1年以上		市原	4

経営メジャー科目

授業科目	単位	開講年	実施時期	基盤科目	受講可能年次	教員免許該当科目	担当教員	ページ
サステナブル・リーダーシップ入門	2	6	前	〇	1年以上		河野	5
大分のものづくりと地域づくりⅠ	2	6	後	〇	1年以上		河野	6
初級簿記	2	6	後	〇	1年以上	商業	越智・山根	7

地域研究メジャー科目

授業科目	単位	開講年	実施時期	基盤科目	受講可能年次	教員免許該当科目	担当教員	ページ
ビジネス英語	2	6	後		1年以上		ホワイト	8
英・米文化論	2	6*	前		1年以上		矢野	9
現代英語論	2	6*	後		1年以上		矢野	10
ヨーロッパ文化論	2	6*	前		1年以上		非（安田）	11
現代ヨーロッパ社会論	2	6*	後		1年以上		非（安田）	12
地域分析論Ⅰ	2	6	前		1年以上		城戸	13
地域分析論Ⅱ	2	6	後		1年以上		城戸	14
法律の基礎と実務	2	6	後		1年以上		非（熊谷・籾倉・渡辺・佐藤・利光・貞永・小島）	15

学部専門基礎科目

授業科目	単位	開講年	実施時期	基盤科目	受講可能年次	教員免許該当科目	担当教員	ページ
サステナビリティのための経済学入門	2	6	前	必修	1年以上		経済メジャーの先生方中心	16
ミクロ経済学	2	6	後	2科目4単位以上選択必修	1年以上	公民	村山・小野	17
初級政治経済学	2	6	前		1年以上	公民	海・田村	18
経営学入門	2	6	前	2科目4単位以上選択必修	1年以上		経営メジャーの先生方	19
会計学入門	2	6	前		1年以上	商業	山根・越智	20
法学入門	2	6	後		1年以上	公民	青野・秋山	21
地域学入門	2	6	後		1年以上		地域研究メジャーの先生方	22

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/(分野)	授業形式
	経済数学(Mathematics for Economics)	学部基盤科目 経済メジャー系	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	経済学部	前期	火4	氏名 中本 裕哉 徳丸 一彦 E-mail y-nakamoto@oita-u.ac.jp 内線 7677

授業の概要

経済理論の理解や経済分析には数学が不可欠である。本講義では，経済学を学ぶ上で必要な入門的な数学（主に微分積分，線形代数）に焦点を当て，数学スキルの修得を目指す。さらに，数学スキルと経済分析の関連性を理解することで，経済学を学ぶための基盤を築く。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	経済理論の理解や経済分析に必要となる入門的な数学スキルを修得する。										
目標2											
目標3											
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	ガイダンス
2	関数
3	均衡分析
4	指数・対数
5	数列
6	導関数
7	1変数の微分
8	中間試験
9	多変数の微分
10	偏微分
11	全微分
12	最適化
13	等式制約のもとでの最適化
14	ベクトルと行列
15	行列演算

アクティブラーニング			その他の工夫
A:知識の定着・確認	○	毎回，講義の終わりに小テストを実施する。	
B:意見の表現・交換			
C:応用志向	○		
D:知識の活用・創造			

時間外学修の内容と時間の目安		
	準備学修	参考書などを必要に応じて予習する。(15h)
	事後学修	授業で扱う例題、小テストで復習する。(30 h)

教科書	教科書を指定しない
参考書	A.C.チャン・K.ウエインライト『現代経済学の数学基礎〈上〉第4版』彩流社，2020年

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
小テスト	30%	○									
中間試験	30%	○									
期末試験	40%	○									

小テスト，中間試験，期末試験から総合的に評価する。

注意事項	
備考	
リンク	
URL	

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
	統計学(Statistics)	学部基盤科目 経済メジャー系	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	経済学部	前期	金2	氏名　中本　裕哉　　徳丸　一彦 E-mail　y-nakamoto@oita-u.ac.jp　内線　7677

授業の概要	統計学は，「科学の文法である」と表現されるように，今日の科学において重要な役割を果たしている。また，私たちの身の回りにも統計学が関わっている事例が溢れている（例えば，生命保険料の計算，選挙結果の速報，ワクチンの効果の判定など）。本講義では，統計学の基礎を学び，様々な統計が生まれるまでのプロセスを正しく理解することで，現実社会における経済事象を公正かつ適切に分析・解釈することを目指す。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	記述統計および確率論と確率分布の基礎を修得する。										
目標2	推定や仮説検定の基礎を修得する。										
目標3	統計的手法を用いて，現実社会における経済事象の分析とその結果の考察ができる。										
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容	
1	ガイダンス
2	度数分布とヒストグラム
3	データの整理I：平均，分散，標準偏差
4	データの整理II：相関係数
5	確率
6	確率変数I：確率分布
7	確率変数II：確率変数の期待値と分散
8	様々な確率分布
9	母集団と標本
10	区間推定I：母分散既知
11	区間推定II：母分散未知
12	仮説検定I：両側検定
13	仮説検定II：片側検定
14	回帰分析
15	まとめ

アクティブラーニング				その他の工夫	
	A:知識の定着・確認	○	毎回，講義の終わりに小テストを実施する。		
	B:意見の表現・交換				
	C:応用志向	○			
	D:知識の活用・創造	○			

時間外学修の内容と時間の目安		
	準備学修	参考書などを必要に応じて予習する。(15h)
	事後学修	授業で扱う例題，小テスト，参考書の章末問題などで復習する。(30 h)

教科書	教科書を指定しない
参考書	小島寛之『統計学入門』 ダイヤモンド社，2006年 森棟公夫ほか著『統計学（改訂版）』 有斐閣，2015年

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	小テスト	30%	○	○								
	レポート課題	30%	○									
	期末試験	40%	○	○	○							
	小テスト，レポート課題，期末試験から総合的に評価する。											

注意事項	小テストや試験では，平方根(√)の計算ができる電卓が必要です。ただし，試験では電卓機能を備えた携帯端末（スマートフォンなど）の使用は認められません。
備考	
リンク	統計WEB統計学の時間（下記URL）を準備学修，事後学修，試験勉強に活用すると良い。 URL　https://bellcurve.jp/statistics/course/

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
	グローバルスタディ入門(Introduction to Global Studies)	メジャー専門科目 経済メジャー科目	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1，2，3，4	経済学部	後期		氏名　デイ スティーブン E-mail　srday@oita-u.ac.jp　内線　6676

授業の概要	The purpose of this module is to provide learners with an understanding of global issues and the impact of globalization from a political and economic perspective as they continue to dominate our lives – for good or for ill. In what ways has globalization impacted upon the nature of state sovereignty? Facilitated the role that global-level institutions play? Been challenged by the rise of populism? This leads us to ask an important question: Is globalization now in reserve?

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	Develop a knowledge and awareness of global issues	○					○				
目標2	Provide the means to comment upon developments in a critical and lucid fashion	○	○		○		○				
目標3	Evaluate and dissect key issues and different schools of thought surrounding the globalization debate.	○			○		○				
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容	
1	Introductory remarks
2	The importance of critical thinking skills
3	Uncovering the dynamics of political and economic change
4	Remembering the Cold War and 1989
5	Key political and economic developments 1945-1989 - Keynesianism and Neo-liberalism
6	Revisiting the global financial crisis (2007-2009)
7	The world today - an era of uncertainty?
8	Political, economic and cultural globalization
9	Interpreting globalization - hyperglobalists, sceptics and transformationalists
10	Thinking about global governance
11	Debates about borders in a globalized world
12	Debates about identity in a globalized world
13	Confronting global risks - wealth inequality
14	Confronting global risks - climate change
15	Where next for globaliztion?

アクティブラーニング				その他の工夫	
	A:知識の定着・確認	○	As an interactive class there will be a number of individual and small-group task-based exercises. This will include: quizzes, crosswords, exercises in applying theory to real-world scenarios and evaluating a wide range of media reports.		Students will be expected to keep a class log. 今日学んだこと　内容の概略、感想、疑問に思ったことなど What you learned today; overview of class; impressions; issues you wondered about
	B:意見の表現・交換	○			
	C:応用志向				
	D:知識の活用・創造	○			

時間外学修の内容と時間の目安		
	準備学修	(30 hours) - Please review the preparatory materials prior to the class. This will include reading, listening to MP3 files and watching programmes about global politics. Seek out Japanese language material in order to build up your background knowledge of global events.
	事後学修	(15 hours) - Update the class log. Check related documents. Watch and review the news/documentary programmes highlighted in class.

教科書	Manfred B. Steger (2023), Globalization: A Very Short Introduction, (6th edition) Oxford: Oxford University Press. ISBN-13: 978-0192886194
参考書	Additional material will be distributed during the course of the module

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	Final Assessment	50%	○		○							
	Class-based exercises	50%	○	○	○							

注意事項	Learners will be expected to have a determination to study in English and a willingness to participate in classroom-based activities and discussion in English.
備考	Preparatory reading prior to class so as to facilitate discussion will be expected. We will make use of newspaper, academic journals, video and web-based material.
リンク	
	URL

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/(分野)	授業形式
	西洋経済史(History of Occidental Economy)	メジャー専門科目 経済メジャー科目	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	経済	後期	木2	氏名　市原　宏一 E-mail　ich@oita-u.ac.jp　内線　7719

授業の概要

先進的な工業化社会を生んだヨーロッパ地域を対象として、中世前期までのヨーロッパ経済社会の変容と展開をたどります。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	中世盛期までのヨーロッパ経済史における基本構造を理解する。										
目標2											
目標3											
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	経済史の方法
2	本源的社会
3	古典古代地中海世界1：植民活動
4	古典古代地中海世界2：アテネ「民主制」
5	古典古代地中海世界3：ローマ「共和制」
6	民族移動期のゲルマン社会
7	資料からみる中世前期ヨーロッパの農村
8	中世前期ヨーロッパの農村：古典荘園
9	資料からみる中世前期ヨーロッパの流通・交易
10	中世前期ヨーロッパの流通・交易：領主経済
11	資料からみる中世盛期ヨーロッパの農村
12	中世盛期ヨーロッパの農村：純粋荘園
13	資料からみる中世盛期ヨーロッパの流通・商業
14	中世盛期ヨーロッパの流通・商業：農村内階層分化
15	まとめ

アクティブラーニング			その他の工夫	
A:知識の定着・確認	○	・小テストないし小レポートを講義中に行い、自己採点して理解の定着を図ります。 ・小テストの回答を、指名発問を受けて行い、教室全体の協働学習で考察を深めます。		
B:意見の表現・交換	○			
C:応用志向				
D:知識の活用・創造				

時間外学修の内容と時間の目安		
	準備学修	配布資料の次回講義部分をあらかじめ読んでおき，質問・意見を用意しておくこと（15h）
	事後学修	授業中に提示した参考資料の読解（15h）、時間中におこなった小テストの誤答箇所について，正解を確認して，ノートに整理しておくこと（15h）

教科書	特にないが、授業中にプリントなどを配付します。
参考書	

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
授業内小テスト	40%										
学期末試験	60%										

注意事項	
備考	講義が一方通行にならないように、小テスト(A5判)を行い、授業内でその内容の発表をしてもらうとともに、答え合わせ・解説を行います。
リンク	URL

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野)	授業形式
	サステナブル・リーダーシップ入門(Introduction to Business Leadership and Sustainable Management)	学部基盤科目 経営メジャー系	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	１・２・３・４	経済学部	前期	木5	氏名　河野　憲嗣 E-mail　kouno-kenji@oita-u.ac.jp　内線　7679（河野）

授業の概要	「サステナブルな社会の実現」や「SDG'sの実践」といった話を聞く機会が増えてきました。そこで改めて、なぜこうした考え方が求められているのか、現在に至るまでの流れを整理し、その重要性や課題への理解を深めます。 サステナブルな社会は現在の延長線上にはありません。実現には前例のない挑戦が必要となります。そこで求められるリーダーシップとは何か。そもそもサステナブルやリーダーシップとは何か。言葉の本質への理解を掘り下げながら、自分たちの生きる未来を主体的に創る責任と方法を学びます。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	サステナブルという言葉が使われる経緯や意味などを理解して具体的に説明できる。	○									
目標2	リーダーシップの基本や多様性を理解して主体的に実践できる。			○							
目標3	サステナブルな社会づくりに取り組むリーダーシップについて自分の考えを持って意見が述べられる。			○							
目標4	自分たちが生きる未来を自ら創るプランを策定して発表できる					○					
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容	
1	オリエンテーション　サステナブルとリーダーシップ
2	サステナブルを巡る議論
3	SDG'sという物語
4	持続可能な社会への取り組み
5	自分たちの生きる未来（課題提出）
6	リーダーシップを巡る議論
7	多様なリーダーシップ
8	スキルとしてのリーダーシップ
9	特別講義（サステナブル・リーダーシップの実践者によるお話）
10	あなたのリーダーシップ（課題提出）
11	サステナブルな社会のためのリーダーシップ
12	サステナブルなリーダーシップとは
13	課題のプレゼン１
14	課題のプレゼン２
15	講評、ふりかえり

ラーニング・アクティブ				その他の工夫	
	A:知識の定着・確認	○	・学習内容を理解していることを確認するための課題、成果物を作成してもらいます。 ・演習や課題の提出と共有やプレゼンの機会を取り入れて、知識の体得と他の学生から学ぶ機会を設けます。		毎回の授業に関するコメントシートの作成、提出を求めます。 コメントシートを通じて授業内で対応できなかった質問や感想に答え、内容を共有することで他の学生から学ぶ機会を設けます。
	B:意見の表現・交換	○			
	C:応用志向	○			
	D:知識の活用・創造				

時間外学修の内容と時間の目安		
	準備学修	「サステナブル」「持続可能な社会」「リーダーシップ」といった言葉を念頭において日頃から新聞や雑誌、インターネットなどで政治、経済、経営、社会、技術、文化に関する記事をよく読んでおくこと。（事前学習30時間）
	事後学修	授業で得た学びに基づいて日常生活の中でサステナブルな社会づくりの実践事例を見つけて理解する。 リーダーシップを発揮できる場面やテーマをみつけて実践してみる。（事後学習15時間）

教科書	教科書は指定しません。 スライドや配布するプリントで進めます。
参考書	必要に応じて授業中に指定します。

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	平常点	40%	○	○								
	レポート、発表	40%			○	○						
	学期末試験	20%	○									

注意事項	課題の提出があります。 授業中に意見を求めたり、レポート課題のプレゼンを求めることがあります。
備考	2017年度以降の入学生のみ受講可能です。
リンク	URL

担当教員の実務経験の有無	○
教員の実務経験	河野憲嗣（企業経営者、全国銀行協会、人事担当）
実務経験をいかした教育内容	ビジネスのリアルな事例や金融サービスの視点からサステナブルな社会やリーダーシップについて解説します。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
	大分のものづくりと地域づくりⅠ(Manufacturing and Community in Oita Ⅰ)	学部基盤科目 経営メジャー系	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1・2・3・4	経済学部	後期	木5	氏名　河野　憲嗣 E-mail　kouno-kenji@oita-u.ac.jp　内線　7679

授業の概要

外部講師によるオムニバス形式の講義です。多彩な分野から講師をお招きして大分のものづくりや地域づくりを発展させるアイデア、方法を学びます。企業経営者や行政、NPOの関係者、各業界の専門家や実務家によるリアルな現場経験に基づいたお話しから、地域活性化のヒントを探求します。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	大分のものづくりと地域づくりにおける課題を発見、理解して説明できる。					○					
目標2	経験知・実践知を通じて社会課題の解決策としてのイノベーションの重要性について理解し、説明できる。			○							
目標3											
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	ガイダンス
2	食品
3	農業
4	芸術
5	製造業
6	小売店
7	観光
8	中間まとめ
9	マスコミ
10	地域、商店街
11	NPO、ボランティア
12	教育
13	金融
14	行政（県庁、市役所など）
15	総括とまとめ（順番や内容は、変更することがあります）

アクティブラーニング			工夫その他の	
A:知識の定着・確認		・講義終了後に講師への質疑時間をとります。積極的に発言して、語られた言葉の真意を掘り下げてください。 ・講義で学んだことをレポートなど成果物にしてもらうことで、学びの定着化を図ります。		毎回の授業に関するコメントシートの作成、提出を求めます。コメントシートを通じて授業内で対応できなかった質問や感想に答え、内容を共有することで他の学生から学ぶ機会を設けます。
B:意見の表現・交換	○			
C:応用志向				
D:知識の活用・創造				

時間外学修の内容と時間の目安		
	準備学修	講義予定の講師に関する情報について図書館やインターネットで事前に概要を調べておくこと。 講師への質問を１つ以上準備する。（事前学習30時間）
	事後学修	講義を聞いた上で、あらためて講義に関する情報を調べてレポートを作成することで学びを深め、学習を発展させる。（事後学習15時間）

教科書	各講師が必要に応じて指定します。
参考書	各講師が必要に応じて指定します。

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
レポート	70%	○	○								
試験	30%	○	○								

注意事項	社会の第一線で活動されている方の話が聞ける良い機会です。現実の社会で起きていることを知り、大分の課題と可能性について理解を深めながら、いま暮らしている地域のことや社会全体への関心を広げてください。
備考	授業の内容や順番は講師の都合により変更する場合があります。 2017年度以降の入学生のみ受講可能です。
リンク	URL

担当教員の実務経験の有無	○
教員の実務経験	河野憲嗣（企業経営者、全国銀行協会、人事担当）
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	○
教員以外の指導に関わる実務経験者	企業経営者、技術者、芸術家、医療実務、マスメディア実務
実務経験をいかした教育内容	企業経営や実務の経験を通じて、現実の社会で求められる知識や考え方の習得を促進します。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
	初級簿記(Elementary Bookkeeping)	学部基盤科目 経営メジャー系	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	経	後期	火2	氏名　越智　学（並行履修）・山根　陽一（単独履修） E-mail　manabu.ochi@oita-u.ac.jp（越智）・y-yamane@oita-u.ac.jp（山根）　内線　7700（越

授業の概要

会計は「ビジネスの言語」とよばれており，経済活動の中で，人々は会計情報を活用しながらコミュニケーションを図っています。会計の書類を作成するための技術が簿記であり，日商簿記検定3級レベル（小規模企業を対象とした簿記）の内容は，ビジネスパーソンに必須の基礎知識であると言われています。また，会計学分野の中級・応用科目を学ぶ際には，簿記の基礎知識をすでに習得していることが前提となります。そこで本講義では，日商簿記検定3級レベルの基礎的な計算技術を学習します。
本講義の具体的な達成水準は，2月に実施される日商簿記検定3級の合格です（検定試験自体は，6月・11月にも実施されます）。本講義は，同検定試験の受験を強制するものではありませんが，学習の達成目標として意識し，達成度を測る道具として積極的に利用してもらいたいと考えています。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	簿記の基本的な用語を，文脈に応じて適切に利用できる。	○									
目標2	小規模企業の簿記一巡の手続き（日商簿記検定3級レベル）を行うことができる。	○									
目標3											
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	ガイダンス＋「会計学入門」の補足：現金過不足，当座借越
2	「会計学入門」の補足：総勘定元帳の締切り
3	期中の手続き(1)：約束手形，手形貸付金・手形借入金，電子記録債権・債務の記帳
4	期中の手続き(2)：未収入金・未払金，立替金・預り金，仮払金・仮受金の記帳
5	期中の手続き(3)：消費税の期中取引，その他の取引，訂正仕訳
6	決算の手続き(1)：現金過不足の整理，当座借越・貯蔵品の振替え，精算表の作成(1)
7	決算の手続き(2)：商品の決算整理
8	決算の手続き(3)：貸倒れの処理，貸倒引当金の計上
9	決算の手続き(4)：有形固定資産の減価償却
10	決算の手続き(5)：有形固定資産の売却，消費税の整理
11	決算の手続き(6)：費用・収益の前払い・前受け，当座借越・貯蔵品の再振替
12	決算の手続き(7)：費用・収益の未払い・未収，法人税等の整理
13	決算の手続き(8)：決算整理後残高試算表
14	決算の手続き(9)：　精算表の作成(2)
15	決算の手続き(10)：損益計算書と貸借対照表の作成

アクティブラーニング			その他の工夫	
A:知識の定着・確認	○	講義中の穴埋め資料，授業中の練習問題（学生間の相談や教員への質問を含む），授業後の復習課題（授業に対する質問・感想・要望の記入欄を含む）		日商簿記検定3級の出題範囲に対応するため，クラス制を採用する。
B:意見の表現・交換	○			
C:応用志向				
D:知識の活用・創造				

時間外学修の内容と時間の目安		
	準備学修	配付資料や教科書等の情報を必要に応じて予習する（7h）。
	事後学修	復習課題を解く（15h）。期末試験に向けた学習を行う（18h）。

教科書	桑原知之（2022）『日商簿記3級とおるテキスト（第3版）』ネットスクール出版。 桑原知之（2022）『日商簿記3級とおるトレーニング（第3版）』ネットスクール出版。
参考書	ネットスクール株式会社（2024）『日商簿記検定模擬試験問題集3級（2024年度版）』ネットスクール出版。 TAC簿記検定講座（2024）『合格するための本試験問題集 日商簿記3級 2024年AW対策』TAC出版。 実教出版企画開発部（2024）『2024年度版 日商簿記検定模擬試験問題集 3級商業簿記』実教出版。

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
提出課題	25%	○	○								
期末試験	75%	○	○								

注意事項	毎回，電卓を持参すること。 初回の授業において，前期の「会計学入門」の理解度を確認するテストを行い，そこで一定以上の点数を取った人を対象にして授業を進めていきます。
備考	教養教育科目「簿記の基礎」（後期・月曜2限）と「初級簿記」を併せて履修した場合，並行履修クラスに配属されます。「初級簿記」のみを履修した場合，単独履修クラスに配属されます。日商簿記検定3級の出題範囲を網羅したい人は，並行履修クラスで学習する必要があります。
リンク	URL

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/(分野)	授業形式
	ビジネス英語(Business English)	メジャー専門科目 地域研究メジャー科目	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1年	経済学部	後期	月3	氏名 Christopher White E-mail 内線

授業の概要

Through this introductory hybrid/online course, students will be introduced to a variety of business related material covering all four skills; reading, writing, listening and speaking. Student progress will be measured both with a number of TOEIC-style practice sections together with a variety of student-centered output tasks which we be submitted on a weekly basis. This course is open to IBP students who have a TOEIC level of approximately 400-500+, enjoy practical speaking opportunities, and would benefit from having a fuller understanding of English as it is used in the work environment.

具体的な到達目標 DP等の対応(別表参照)

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	Develop a basic understanding of business vocabulary and etiquette	○	○		○		○				
目標2	Improve presentation skills	○	○		○		○				
目標3	Practice a variety of practical communicative skills and situations that are common to the workplace	○	○	○	○		○				
目標4	Practice essential test taking strategies for the TOEIC.	○	○								
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	Orientation, self-intros (Zoom), diagnostic test
2	Unit 1 - First meetings and greetings
3	Unit 1 - Talking about your job
4	Unit 2 - Talking about schedules and arrangements
5	Unit 2 - Parts of an email
6	Unit 3 - Asking for and giving advice
7	Unit 3 - Telephoning
8	Midterm Test
9	Unit 4 - Asking for and giving opinions; agreeing and disagreeing
10	Unit 4 - stages of a meeting
11	Unit 5 - Eating out; requests
12	Unit 5 - Presentations; basic staging and signposting
13	Unit 6 - At a hotel
14	Unit 6 - Telephoning 2; answering the telephone
15	Final Exam or Final Project

アクティブラーニング			その他の工夫
A:知識の定着・確認	○	Review exam, group discussion and presentations, LTD, peer response, role-play scenario learning, internet research	computer-based research and/or interview of professionals
B:意見の表現・交換	○		
C:応用志向			
D:知識の活用・創造	○		

時間外学修の内容と時間の目安		
	準備学修	TOEIC practice, (4 skills learning), listening
	事後学修	Extensive reading, using TOEIC reference materials to study outside of class, presentation preparation and interview practice, resume preparation.

教科書	International Express Pre-intermediate (Oxford) ※Students must bring a dictionary to class. Longman's Advanced Learner's Dictionary is recommended.
参考書	Get that Job (BBC): http://www.bbc.co.uk/worldservice/learningenglish/business/getthatjob/ Talking Business (BBC): http://www.bbc.co.uk/worldservice/learningenglish/business/talkingbusiness/ ※Students should have the Oxford Business English Dictionary.

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
Attendance/participation	10%	○	○								
Midterm exam	25%	○	○								
Moodle homework	40%	○	○								
Final exam	25%	○	○								

注意事項	-Students who are absent for more than 5 classes will automatically receive an F -This is a hybrid/online course (a portion of the classes will be held online via Zoom)
備考	A final project may be held in place of the final exam. This decision will be made on the first day of class. In such a case, the final project will have the same weight as the final exam.
リンク	URL

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
	英・米文化論(American Culture)	メジャー専門科目 地域研究メジャー科目	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1	経済	前期	火3	氏名　矢野 英子 E-mail　yano-hideko@oita-u.ac.jp　内線　7725

授業の概要	
	これまでに学んできた英語に関する知識を、歴史的な背景や文化も含めて俯瞰し再構築する事で、英語に関する理解や興味をさらに深め、広げる。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	英語という言語の辿った流れを理解できる。	○									
目標2	現代英語の特徴を英語の歴史の流れから理解できる。	○									
目標3	学んだことをまとめ、グループで発表することができる。			○							
目標4	毎時間の学びを自分で振り返り評価できる。						○				
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容	
1	Orientation　先史時代
2	ケルトの世界
3	ゲルマンの征服
4	ローマ帝国の支配
5	バイキングの時代
6	アングロサクソン
7	古英語について
8	ノルマンの征服
9	英語の復権
10	中英語の特徴
11	シェークスピアの時代
12	標準英語の成立
13	近代英語
14	アメリカへ渡った英語
15	まとめと発表

アクティブラーニング				その他の工夫	
	A:知識の定着・確認	○	学んだ内容の確認をするためにペア、グループで話をする。 毎回の学びを記録し自己評価を行う。 学んだことをまとめ、発表をすることで学びを主体的に捉え、理解を深める。		映像・視覚資料を用いて、理解を深める。
	B:意見の表現・交換	○			
	C:応用志向				
	D:知識の活用・創造				

時間外学修の内容と時間の目安		
	準備学修	関連資料に目を通す。(15h)
	事後学修	毎回の授業で学んだことを整理する。(20h) 関連資料などをみつける。(15h)

教科書	授業中に指示する。
参考書	『ベーシック英語史』家入葉子著、ひつじ書房、ISBN 978-4894763494 『図説 英語史入門』中尾俊夫・寺島廸子著、大修館書店、ISBN 978-4469241969 『英語の歴史』寺澤盾著、中公新書、ISBN 978-4121019714

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	試験またはレポート*	50%	○	○	○							
	毎週の学びの振り返り	50%	○	○		○						
	*授業の進度によって決定する。											

注意事項	10回以上の出席を必要とする。遅刻、早退は２回で１回の欠席とカウントする。
備考	授業形態は、状況に応じて決定する。 グループ内で話し合ったり、教えあう活動に積極的に参加できること。
リンク	URL

担当教員の実務経験の有無	○
教員の実務経験	海外の大学、国内の大学・公立学校での教育経験、および福祉機関での勤務経験
実務経験をいかした教育内容	それぞれの経験を学生の英語指導および授業内での学生指導に生かすことができる。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/(分野)	授業形式
	現代英語論(Contemporary English)	メジャー専門科目 地域研究メジャー科目	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1	経済	後期		氏名　矢野　英子 E-mail　yano-hideko@oita-u.ac.jp　内線　7725

授業の概要	
授業の概要	ことばとしての英語の様相や、英語圏の文化を概観しつつ、現代の英語の内包する様々な問題に触れ、現代英語への理解と知識を深める。私たち日本人にとっての英語を改めて見直し、異文化コミュニケーションに生かすことを目指す。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	現代英語の特徴を英語の歴史の流れから理解できる。	○									
目標2	英語周辺の知識を増やすことで興味を深める。	○									
目標3	学んだことをまとめ、グループで発表することができる。	○	○	○	○	○					
目標4	毎時間の学びを自分で振り返り評価できる。			○			○				
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容	
1	英語の世界
2	英語の歴史（１）英語のはじまり
3	英語の歴史（２）英語の類義語
4	英語の歴史（３）アメリカ英語とイギリス英語
5	世界の英語 World Englishes
6	ことばとしての英語（１）英語の音
7	ことばとしての英語（２）ことばと表現
8	ことばとしての英語（３）文学とことば
9	英語圏の生活・行事
10	英語圏の生活・文化
11	英語圏の文化・スポーツ
12	英語圏の世界　ギリシャ神話と聖書
13	現代の英語 Political Correctness
14	日本の英語史 学習者としての英語　和製英語
15	まとめと発表

アクティブラーニング				その他の工夫	
	A:知識の定着・確認	○	学んだ内容の確認、発表をするためにペアあるいはグループで話をする。 毎回の学びを記録し自己評価を行う。 学んだことをまとめ、発表をすることで学びを主体的に捉え、理解を深		映像・視覚資料を用いて、理解を深める。
	B:意見の表現・交換	○			
	C:応用志向				
	D:知識の活用・創造				

時間外学修の内容と時間の目安		
	準備学修	関連資料に目を通す。(15h)
	事後学修	毎回の授業で学んだことを整理する。(15h) 関連資料などをみつける。(15h)

教科書	『社会人のための英語の世界ハンドブック』酒井志延 ほか編、大修館書店、ISBN 978-4469246155
参考書	『図説 英語史入門』中尾俊夫・寺島廸子著、大修館書店、ISBN 978-4469241969 『英語の歴史』寺澤盾著、中公新書、ISBN 978-4121019714

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
試験またはレポート*	50%	○	○	○							
毎週の学びの振り返り	50%	○	○		○						

*クラスの状況よって決定する。

注意事項	10回以上の出席を必要とする。遅刻、早退は２回で１回の欠席とカウントする。
備考	授業形態は、状況に応じて決定する。 グループ内で話し合ったり、教えあう活動に積極的に参加できること。
リンク	URL

担当教員の実務経験の有無	○
教員の実務経験	海外の大学、国内の大学・公立学校での教育経験、および福祉機関での勤務経験
実務経験をいかした教育内容	それぞれの経験を学生の英語指導および授業内での学生指導に生かすことができる。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野)	授業形式
	ヨーロッパ文化論(European culture)	メジャー専門科目 地域研究メジャー科目	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1,3,4	経済学部	前期	木3	氏名　安田　俊介（非） E-mail　syasuda@oita-u.ac.jp　内線　7728

授業の概要

この授業では、フランスの起源から18世紀末に起こったフランス革命にいたるまでの歴史と文化の流れのアウトラインをたどりながら、合わせてフランスを取り巻く西ヨーロッパ世界の成り立ちとその特徴について、そのつどの時代背景を交えながら説明していきます。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	フランスの歴史と文化、そして西ヨーロッパ世界の本質を理解する										
目標2	キーワードと年号を暗記する										
目標3	西ヨーロッパ世界を空間と時間の両面から把握する										
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	はじめに―授業の全体の流れの説明
2	フランスの基本情報
3	ケルト文化
4	キリスト教の歴史と文化
5	フランク王国―ヨーロッパ連合の母胎としての
6	中世ヨーロッパの世界１
7	中世ヨーロッパの世界２
8	ルネサンスと宗教改革
9	絶対王政期のヨーロッパ１
10	絶対王政期のヨーロッパ２
11	啓蒙期のヨーロッパ１
12	啓蒙期のヨーロッパ２
13	フランス革命と国民国家の創出１
14	フランス革命と国民国家の創出２
15	まとめ

アクティブ・ラーニング			その他の工夫
A:知識の定着・確認		授業のさいに関連する文献等の情報を示します。積極的にそれらを活用してください。	必要に応じて、年表・地図等を配布し、西ヨーロッパ世界の成り立ちとその歴史を立体的に把握できるように配慮します。
B:意見の表現・交換			
C:応用志向	○		
D:知識の活用・創造			

時間外学修の内容と時間の目安	
準備学修	シラバスを参考にして、毎回の授業の前に高校時に使用した世界史Aあるいは世界史Bの教科書の該当箇所を予め読んでおいてください。（計22.5ｈ）
事後学修	授業のノートを必ず読み直して、どこがポイントなのか、大切なキーワードや年号は何なのかを考え、できるだけ暗記する習慣を身につけてください。（計22.5ｈ）

教科書	プリントを配布します。
参考書	授業の理解を深めるための文献はそのつどとりあげますが、あらかじめ明石和康『ヨーロッパがわかる―起源から統合への道のり』岩波ジュニア新書、2013年を読んでおくことを勧めます。

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
授業への取り組み	40%										
学期末試験（筆記）	60%										

注意事項	遅刻、授業中の私語、携帯電話の使用等はきびしくチェックします。
備考	ヨーロッパの歴史や文化に関心を持っていて、この機会に色々な本を読んでみたいと考えている学生を歓迎します。
リンク	URL

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野)	授業形式
	現代ヨーロッパ社会論(Modern European Society)	メジャー専門科目 地域研究メジャー科目	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1,3,4	経済学部	前期	木3	氏名　安田俊介（非） E-mail　syasuda@oita-u.ac.jp　内線　7728

授業の概要	この講義では、18世紀末のフランス革命以降から現在までのフランス社会の歴史と文化の流れを主軸として、それを取り巻く西ヨーロッパ社会の動向を説明していきます。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	フランスを中心とした西ヨーロッパの近・現代史を理解するためのキーワードや年号を憶え、全体の流れを簡潔に説明できる										
目標2											
目標3											
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容	
1	はじめに—授業の全体の流れの説明
2	フランスの基本情報
3	フランス革命の現代的意義
4	１９世紀前半のヨーロッパ社会１
5	１９世紀前半のヨーロッパ社会２
6	１９世紀後半のヨーロッパ社会１
7	１９世紀後半のヨーロッパ社会２
8	２０世紀前半のヨーロッパ社会１
9	２０世紀前半のヨーロッパ社会２
10	２０世紀後半のヨーロッパ社会１
11	２０世紀後半のヨーロッパ社会２
12	２１世紀前半のヨーロッパ社会
13	現在のヨーロッパ社会の諸問題
14	ヨーロッパ統合の諸問題
15	今年度の講義の総括と展望

アクティブラーニング				その他の工夫	
A:知識の定着・確認		必要に応じて，年表・地図等を配布し，近代から現在に至るヨーロッパの歴史と社会を立体的に把握できるような工夫をします。			
B:意見の表現・交換					
C:応用志向					
D:知識の活用・創造					

時間外学修の内容と時間の目安		
	準備学修	シラバスを参考にして、毎回の授業の前に高校時に使用した世界史Aあるいは世界史Bの教科書の該当箇所を予め読んでおいてください。（30ｈ）
	事後学修	授業ノートを必ず読み直し、どこがポイントなのか、大切なキーワードや年号は何なのかを考え、できるだけ暗記する習慣を身につけてください。（15ｈ）

教科書	特に教科書は指定しません。必要に応じてプリントを配布します。
参考書	授業の理解を深めるための文献はそのつどとりあげますが、予め明石和康『ヨーロッパがわかるー起源から統合への道のり』岩波ジュニア新書、2013年を読んでおくことを勧めます。

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	授業への積極的取り組み等	20%										
	学期末試験	80%										
	試験はレポートではなく、筆記試験です。											

注意事項	遅刻、授業中の私語、携帯電話の使用はきびしくチェックします。
備考	フランスやヨーロッパの歴史だけでなく、社会学や思想史に興味のある読書好きの学生を歓迎します。
リンク	
	URL

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
	地域分析論Ⅰ(An Introduction to Area / Regional Studies Ⅰ)	メジャー専門科目 地域研究メジャー科目	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	経済学部	前期	金2	氏名　城戸　照子 E-mail　tkido@oita-u.ac.jp　内線　7946

授業の概要
19世紀的「国民国家」（nation　state）を越境した広義の「地域」が成立する必然性と、その構築に必要な条件を考察する。具体的事例として東南アジア諸国の国家形成史と、広域経済共同体としてのASEAN形成史を考える。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	東南アジア地域の経済的地誌を学ぶ（資源地図を含む）	○	○	○							
目標2	東南アジア地域の社会経済事情の基礎知識を確かなものにする。	○	○	○							
目標3	東南アジア地域の多民族・多文化・多言語・多宗教の各国形成史を知る	○	○	○							
目標4	ASEANの成立・確立・発展の歩みを知る	○	○	○							
目標5	東南アジア地域の日・米・中・豪との政治経済的関係史を整理する	○	○	○							
目標6	ASEANのこれからと東南アジア諸国のこれからを考える	○	○	○							
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容	
1	導入：東南アジア地域はいつ「東南」アジアになったか
2	東南アジア地域の古代史と「大航海時代」＝「交易の時代」
3	ヨーロッパによる植民地化の過程とアジア域内市場での東南アジアの経済成長
4	ミャンマー＆マレーシア＆シンガポール：英領マラヤ（シンガポール含む）・英領ボルネオ・英領ビルマとその独立
5	インドネシア：蘭領東インドとその独立
6	ベトナム：仏領インドシナと対日関係・対仏独立戦争からベトナム戦争へ
7	フィリピン：スペインのフィリピン支配（対中国貿易商品の開発）とアメリカ合衆国領へ
8	第二次世界大戦中の、東南アジアでの日本の活動
9	第二次世界大戦後の植民地東南アジアの独立
10	戦後の冷戦構造化での東南アジアとベトナム戦争終結
11	東南アジア各国の開発主義と親米反共主義から、ASEANが誕生する？
12	1970年代以降の「開発独裁」による経済発展（タイ・フィリピン・インドネシア）
13	多民族国家としてのマレーシアと都市国家シンガポールの独立
14	カンボジア和平（ベトナム・ラオス・カンボジアの関係）とASEAN10への発展
15	結論：東南アジア地域を、ASEANはASEAN諸国としてまとめていけるか

ラーニング アクティブ				工夫 その他	
	A:知識の定着・確認	○	新聞記事などの資料を提示し、ニュースの前後の事情も含め、理解を深める。事前に指定して重要なキーワードを調べてくる課題を出し、予習重視での授業を行う。		講義中にニュース映像を紹介して現状を知る資料とする。報道からキーワードを聴き取るシートなどを配布する。
	B:意見の表現・交換				
	C:応用志向				
	D:知識の活用・創造	○			

時間外学修の内容と時間の目安		
	準備学修	教科書の指定ページを読み、重要だと思われるキーワードをノートに書き、予習として調べる（15h）。時事ニュース等に関心を持ち、その月の東南アジア関連ニュースのトピックスをノートに記録する（15h）。
	事後学修	講義中の説明資料から、事前に選んだキーワードの説明に追加して自分でまとめる（15h）。毎回、ムードルの授業アンケート票に回答するかたちで、時事ニュースについての考えを書く（15h）。

教科書	古田元夫（2021）『東南アジア史10講』、岩波書店（岩波新書１８８３）。
参考書	授業中に文献目録を配付する。『現代インドネシアを知るための６４章』などの明石書店のエリアスタディーズのシリーズを中心とする。

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
中間試験（6月末に実施予定）知識の定着を問う問題を多く出題。	50%	○	○	○							
学期末試験　論述形式で考察の深化を問う問題を出題。	50%				○	○	○				

成績評価は中間試験50点（もしくは中間レポート50点）、学期末試験50点を総合して評価する。

注意事項	対面を原則とするが、オンライン授業（ZOOM）となることがある。資料配布やアンケート送信などでmoodle（ムードル）を利用するので、授業前後に必ずムードルのレッスンを確認すること。また、手元で資料を確認したい場合は、教室にPCを持ってくること。
備考	高校で世界史A，世界史Bを履修していなくても受講できるが、必要な基礎的知識の整理は各自で行うこと。その際必要な文献については、講義中に紹介する。
リンク	
URL	

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
	地域分析論Ⅱ(An Introduction to Area / Regional Studies Ⅱ)	メジャー専門科目 地域研究メジャー科目	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	経済学部	後期	金2	氏名　城戸　照子 E-mail　tkido@oita-u.ac.jp　内線　7946

授業の概要

この講義では、「国民国家」（nation state）に内包される「狭義」の「地域」を取り上げる。対象とするのは主として日本なので、特徴ある「地域」の地方自治体の取組や政策を参照する。「地域」の国際化および自治体の「移民政策」を「外国人とともに学び働き生活する方針と具体的取り組み」と広くとらえ、少子高齢化の日本社会の今後の課題を考えることをねらいとする。

具体的な到達目標

		DP等の対応(別表参照) 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	「多文化共生」の理念を知る。	○	○	○							
目標2	外国人と一緒に働く時の「外国人労働者」問題と法改正の知識を知る。	○	○	○							
目標3	「定住外国人」に地方自治体が働きかける必要性と具体例を考える。	○	○	○							
目標4	日本社会の「移民統合政策」を考える	○	○	○							
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	「多文化共生」のスローガンを知る。
2	「多文化主義」と「多文化共生」の違いを、国際社会学の観点から考える。
3	日本における外国人の在留資格と居住実態を知る。
4	日本の留学生30万人計画と労働人口減少の関係を考える
5	少子高齢化によって、本当に「地方消滅」の時代が来るのか、問う。
6	外国人労働者増加の経済的影響を考える。
7	外国人労働者増加の社会的影響を考える。
8	技能実習生という制度の必要性を問い直す。
9	出身国によって異なる来日時期を考える。
10	３K職場と外国人労働力を考える。
11	日系南米人と「地域」社会の関係の実例を探す。
12	人の移動について、日米比較をしてみる。
13	移民の諸権利について、ヨーロッパの例に学ぶ。
14	日本語教育のこれからを考える。
15	これからの「地域」が「国家」の枠を超えてグローバルに展開するのを考慮する要性を知る。

アクティブラーニング			その他の工夫
A:知識の定着・確認	○	新聞記事などをコピー配布する。また、官公庁の公式ウェブサイト検索を宿題として、正確な統計データにアクセスするリテラシーを磨く。	講義中にニュース映像を紹介して現状を知る資料とする。報道からキーワードを聴き取るシートを配布する。
B:意見の表現・交換	○		
C:応用志向			
D:知識の活用・創造			

時間外学修の内容と時間の目安	
準備学修	教科書の指定ページを読み、重要だと思われるキーワードをノートに書き出す。（15h）教科書のキーワードについて、官公庁のデータから制度を理解する（15h）。
事後学修	講義中の説明年料から、事前に選んだキーワードの説明を自分でまとめる（15h）。また、毎回、ムードルを通じて授業アンケート・質問票に回答を送信し、授業の復習をする（15h）。

教科書	永吉　希久子著（2020）『移民と日本社会』中央公論新社
参考書	授業中に、参考文献，参考WebサイトURLを紹介する。

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
小テスト。基本的な知識が正確に理解されているかを確認する。	50%	○	○								
学期末試験で、自分の考えを論述できるかどうか評価する。	50%			○	○						

小テストの集計もしくは学期中の中間テスト（50点満点）と学期末試験（もしくは学期末レポートでいずれも50点満点）の成績を総合して評価する。

注意事項	対面授業とする。Moodle（ムードル）を利用し、アンケート送信やURLから記事等を検索するので，授業前後に必ず確認すること。またムードル掲載の資料について、授業中に確認したい場合はPCを教室に持ってくること。
備考	世界史A、世界史Bを履修していなくても受講できるが、必要な基礎知識の整理は各自で行うこと。発信元が不明なインターネット上の情報には、不正確なものもある。検索の際には、引用元となるWebサイトが信頼できる情報源か否かを、常に確認すること。
リンク	
URL	

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/(分野)	授業形式
	法律の基礎と実務(Legal Basis and Practice)	メジャー専門科目 地域研究メジャー科目	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2	経	後期	水5	氏名　利光　宏司 E-mail　bundai2024@taketa10432.com　内線

授業の概要

大分県弁護士会の法教育委員会に所属し，第一線で活動する複数の弁護士がリレー形式で講義を行う。
社会人への第一歩を踏み出した受講生のために，社会人として最低限知っておくべき法知識を身につけてもらうことを目的とするが，アカデミックな法学の授業にとどまらず，裁判例や担当弁護士が日々取り組む実務の体験談を交えることで，ダイナミックな法律実務の世界を体感し，弁護士を身近な存在として認識してもらいたい。

具体的な到達目標

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	法学の世界を体感する。										
目標2	代表的な法分野の基礎について理解する。										
目標3	法曹の仕事を知る。										
目標4	双方向の講義を通じて論路的な思考力・表現力を身につける。										
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

(DP等の対応(別表参照))

授業の内容

1	ガイダンス
2	債権法の基礎（1）
3	債権法の基礎（2）
4	不動産と法
5	会社と法（1）
6	会社と法（2）
7	労働者と法
8	民事紛争の解決法
9	家族法の基礎（1）
10	家族法の基礎（2）
11	刑事法の基礎（1）
12	刑事法の基礎（2）
13	インターネットと法
14	主権者と法
15	講義のまとめ

アクティブラーニング

A:知識の定着・確認	○	受講者の積極的な発言を求める。	その他の工夫
B:意見の表現・交換	○		
C:応用志向			
D:知識の活用・創造			

時間外学修の内容と時間の目安

準備学修	新聞やテレビのニュースによく触れておくこと。（20h）
事後学修	講義で触れた重要箇所を適宜復習すること。（25h）

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しない。

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
平常点	50%										
期末レポート	50%										

注意事項

最新の小型六法（「ポケット六法」（有斐閣），「デイリー六法」（三省堂））を用いて学習に取り組むことが望ましい。

備考

リンク

URL

担当教員の実務経験の有無	○
教員の実務経験	弁護士

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
	サステナビリティのための経済学入門(Introduction to Economics and Sustainability)	学部専門基礎科目 学部専門基礎科目	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
必修	2	1，2，3，4	経済学部	前期	木1	氏名　石井　まこと　他経済メジャーの教員 E-mail　mak@oita-u.ac.jp　内線　7698

授業の概要	
授業の概要	経済学部のすべての学生を対象として、高校「政治・経済」で学修した内容から、大学専門教育への橋渡しを目標とし、経済学部における学修の基礎となる経済学の考え方、及び経済理論の政策への応用などについて学びます。その上で、サステナビリティ(持続可能性)と経済学の関係について考えるテーマを毎回提示し、経済学的思考の基礎力を身につけます。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	経済学の考え方を説明できる。	○									
目標2	経済理論の政策への応用例について説明できる。	○									
目標3	資本主義の特徴，国民所得と景気，市場の役割，金融・財政のしくみの基礎事項を説明できる。	○									
目標4	労働問題，社会保障，日本・世界経済の歩み，国際経済について基礎事項を説明できる。	○									
目標5	サステナビリティと経済学の関係について説明できる。	○									
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容	
1	イントロダクション
2	資本主義の一般的傾向
3	市場経済のしくみ
4	国民所得と景気
5	財政のしくみとはたらき
6	金融のしくみとはたらき
7	中間の振り返りと今後の発展（コースでの学び）
8	世界経済の歩み
9	日本経済の歩み
10	労働問題・社会保障制度のしくみ
11	公害と環境保全
12	国際貿易と世界経済
13	地域主義の動き
14	発展途上国と国際問題
15	まとめ（サステナビリティと社会科学）

アクティブラーニング				その他の工夫	
	A:知識の定着・確認	○	授業前の課題や講義時のレポート・試験を実施し、内容についての理解を深めてもらいます。		
	B:意見の表現・交換	○			
	C:応用志向				
	D:知識の活用・創造				

時間外学修の内容と時間の目安		
	準備学修	高校「政治・経済」の教科書、またはそれと同等の内容の資料に基づく準備学修と予習課題の提出（20h）。
	事後学修	講義内容の振り返り（14h）

教科書	教科書は使用しません。随時資料を配付します。
参考書	高校「政治・経済」の教科書

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	予習課題	40%	○	○	○	○	○					
	授業回ごとのテストまたはレポート	60%	○	○	○	○	○					

注意事項	講義中の私語・携帯電話は厳禁です。
備考	内容については変更の可能性があります。また，受講生を２クラスに分けて同時刻に開講するため、クラスによって授業の内容の順序が若干異なることがあります。
リンク	
URL	

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
	ミクロ経済学(Microeconomics)	学部専門基礎科目 学部専門基礎科目	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	経済学部	後期	金1	氏名　村山　悠・小野　宏 E-mail　　内線

授業の概要

ミクロ経済学はマクロ経済学とともに理論経済学の基礎理論となるものであり、私たちの日常生活に深くかかわった経済問題を考える際の判断材料を提供してくれる。この講義では、ミクロ経済学の基本的なテーマである消費者や企業がどのように行動し、また市場でどのように価格や取引量が決定されるかについて理解することをねらいとする。

具体的な到達目標

		DP等の対応(別表参照) 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	市場という概念について具体的なイメージを形成できる。	○									
目標2	需要と供給の理論を理解し、価格形成について説明できる。	○									
目標3	市場の役割と市場の問題点を説明できる。	○									
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	ミクロ経済学とは
2	需要と供給(1)　需要・供給曲線
3	需要と供給(2)　価格変動と需要・供給曲線のシフト
4	需要と供給(3)　地価・消費税への応用
5	需要曲線と消費者行動(1)　需要曲線の構造
6	需要曲線と消費者行動(2)　市場需要と消費者余剰
7	費用の構造と供給行動(1)　供給曲線と費用曲線
8	費用の構造と供給行動(2)　利潤最大化行動
9	市場取引と資源配分(1)　米価問題
10	市場取引と資源配分(2) 間接税の影響
11	市場取引と資源配分(3)　自由貿易の利益
12	企業の参入・退出行動(1)　完全競争市場の長期均衡
13	企業の参入・退出行動(2)　参入・退出による調整
14	無差別曲線と効用
15	まとめ

アクティブラーニング				その他の工夫
A:知識の定着・確認	○	授業の最後に、まとめ等を記入してもらう機会を設けるようにする。		
B:意見の表現・交換				
C:応用志向				
D:知識の活用・創造				

時間外学修の内容と時間の目安		
	準備学修	教科書・配付資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する(15h)
	事後学修	教科書・配付資料や参考文献等を用いて復習する(15h)

教科書	『ミクロ経済学　第3版』　伊藤元重著　日本評論社
参考書	講義中に適時紹介する。

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
定期試験	70%	○	○	○							
小テスト・レポート等	30%	○	○	○							

注意事項	講義中の私語は禁止する。 詳細な注意事項は1回目の講義で説明する。
備考	
リンク	URL

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野)	授業形式
	初級政治経済学(Introduction to the Political Economy)	学部専門基礎科目 学部専門基礎科目	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択必修	2	1	経	前期	木3	氏名　海　大汎・田村　哲也 E-mail　dbhae@oita-u.ac.jp / ttamura@oita-u.ac.jp　内線　7681 / 7706

授業の概要	・テーマ：市場経済と資本主義 ・概要：本講義は、政治経済学の基礎知識を学修するものとして、市場経済と資本主義の違いおよび資本主義社会の特殊歴史性について理解を深めることを目的とする。

具体的な到達目標		DP等の対応(別表参照) 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	資本主義と市場経済の違いを説明できる。	○		○							
目標2	資本主義社会の特殊歴史性を理解できる。	○		○							
目標3	「政治経済学Ⅰ」及び「政治経済学Ⅱ」の学修に必要な基礎知識を身につける。	○		○							
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容	
1	［前半クラス］オリエンテーション
2	資本主義の歴史（1）資本主義以前の経済システム
3	資本主義の歴史（2）資本主義の成立
4	資本主義の歴史（3）産業革命からフォーディズム
5	資本主義について考えた思想家たち
6	さまざまな国の資本主義
7	グローバル資本主義
8	資本主義の現在と未来
9	［後半クラス］交換とは何か
10	物々交換と商品交換
11	共同体と市場
12	モノと商品
13	価値と価格
14	労働力商品
15	市場経済と資本主義

アクティブラーニング				その他の工夫	
	A:知識の定着・確認	○	・小テストやQ&A、講読、演習課題を実施することで、授業内容について理解を深めてもらいます。		
	B:意見の表現・交換	○			
	C:応用志向				
	D:知識の活用・創造	○			

時間外学修の内容と時間の目安		
	準備学修	［15h］次回の予定箇所を読み、分からないことや疑問点をまとめる。
	事後学修	［20h］講義の内容を参考にして自分の思考や問題意識を深める。

教科書	・講義資料を適宜配布します。
参考書	・永谷清(著)『市場経済という妖怪－『資本論』の挑戦と現代』（2013）社会評論社。・伊藤誠(著)『入門 資本主義経済』（2018）平凡社，・ユルゲン・コッカ（山井敏章訳）『資本主義の歴史－起源・拡大・現在』(2018）人文書院，・中谷武ほか『資本主義がわかる経済学』(2019）大月書店

成績評価の方法及び評価割合 評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
毎回の事後課題	60%	○	○	○							
中間レポート	40%	○	○	○							

注意事項	・無断欠席〔※連絡・説明・証明なしの欠席〕は減点対象となります。
備考	
リンク	URL

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
	経営学入門(Introduction to Management)	学部専門基礎科目 学部専門基礎科目	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択必修	2	1	経済学部	前期	火3	氏名 加納 拡和・松隈 久昭・本谷 るり・松谷 葉子 E-mail hkano@oita-u.ac.jp（加納）・himatsu@oita-u.ac.jp（松隈）・motoya@oita-u.ac.jp（本

授業の概要	初めて経営学を学ぶ学生諸君に対して、専門基礎としての講義を意識して行います。また、専門経営学各論への橋渡しとしての役割を考慮して、幅広い講義内容を提供します。経営学の基礎知識を理解できるようにします。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	経営学の各分野における基礎的な専門用語の意味や原理を理解・説明できる。	○									
目標2	経営学の基礎的知識を理解し、説明できる。	○									
目標3	新聞・雑誌等の経営学用語を理解し、説明できる。	○									
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容	
1	第A教室・第B教室 イントロダクション
2	A教室 企業組織の成立と維持(1)：組織の捉え方（担当：本谷） B教室 戦略経営論(1)：競争戦略（担当：加納）
3	A教室 企業組織の成立と維持(2)：組織の構造（担当：本谷） B教室 戦略経営論(2)：イノベーション（担当：加納）
4	A教室 企業組織の成立と維持(3)：組織と人のかかわり（担当：本谷） B教室 戦略経営論(3)：グローバル戦略（担当：加納）
5	A教室 戦略経営論(1)：競争戦略（担当：加納） B教室 企業組織の成立と維持(1)：組織の捉え方（担当：本谷）
6	A教室 戦略経営論(2)：イノベーション（担当：加納） B教室 企業組織の成立と維持(2)：組織の構造（担当：本谷）
7	A教室 戦略経営論(3)：グローバル戦略（担当：加納） B教室 企業組織の成立と維持(3)：組織と人のかかわり（担当：本谷）
8	第A教室・第B教室 中間試験
9	A教室 マーケティング(1)：4Pの説明（担当：松隈） B教室 コンテンツ産業と事業創造(1)：コンテンツ産業（担当：松谷）
10	A教室 マーケティング(2)：消費者行動（担当：松隈） B教室 コンテンツ産業と事業創造(2)：ビジネスモデル（担当：松谷）
11	A教室 マーケティング（3）：デジタルマーケティング（担当：松隈） B教室 コンテンツ産業と事業創造（3）：ターゲットと価値（担当：松谷）
12	A教室 コンテンツ産業と事業創造(1)：コンテンツ産業（担当：松谷） B教室 マーケティング(1)：4Pの説明（担当：松隈）
13	A教室 コンテンツ産業と事業創造(2)：ビジネスモデル（担当：松谷） B教室 マーケティング(2)：消費者行動（担当：松隈）
14	A教室 コンテンツ産業と事業創造(3)：ターゲットと価値（担当：松谷） B教室 マーケティング(3)：デジタルマーケティング（担当：松隈）
15	第A教室・第B教室 期末試験

アクティブ・ラーニング				
A:知識の定着・確認	○	授業毎に学生からの質問を受ける機会を設け，その内容についてフィードバックすることで，他の学生の意見を聞く機会を与える。特に実生活に応用可能な意見を多くとり上げ，受講生の応用力を高める。	その他の工夫	講義資料や参考文献をMoodleに公開し，学習を促進する。尚、資料をmoodleではなく、印刷したものを配布することもあります。詳細は、各担当教員の初回講義にて説明があります。
B:意見の表現・交換				
C:応用志向	○			
D:知識の活用・創造	○			

時間外学修の内容と時間の目安		
	準備学修	配付資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する(18h)。
	事後学修	資料を用いて、講義の復習を行い(20h)、講義において紹介した経済・経営関連知識を実際の生活場面と関連させて捉える(14h)。

教科書	適宜講義資料を配布します。
参考書	講義の進捗度に応じて適宜紹介します。

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
中間試験　前半担当教員２名各２５％	50%	○	○	○							
学期末定期試験　後半担当教員２名各２５％	50%	○	○	○							

原則として、毎回出席をとります。三分の二以上出席しなければ試験の受験資格を失うことになります。尚、出席の取り方については担当教員によって異なります。（各担当教員の初回にて解説します）

注意事項	私語等授業の進行の妨げになる学生の受講は認めない。
備考	
リンク	URL

担当教員の実務経験の有無	〇
教員の実務経験	経営者として事業経営の経験（松谷）

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
	会計学入門(Introduction to Accounting)	学部専門基礎科目 学部専門基礎科目	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択必修	2	1,2,3,4	経	前期	火2	氏名　越智　学・山根　陽一 E-mail　manabu.ochi@oita-u.ac.jp（越智）・y-yamane@oita-u.ac.jp（山根）　内線　7700（越

授業の概要

会計は「ビジネスの言語」とよばれており，経済活動の中で，人々は会計情報を活用しながらコミュニケーションを図っています。そのため，基本的な会計用語の意味や会計情報の使い方は，2年次以降に所属する学科を問わず，経済学部の学生全員が理解しておく必要があります。また，経済社会には会計を専門とする職業（税理士や公認会計士など）があります。それらの職業を目指す人にとっては，体系的な知識を基礎から積み上げていくことが重要です。この授業では，会計学の体系とその基礎知識を学ぶことにより，今後の専門知識の学び方や自らのキャリアを効果的にデザインできるようになることをねらいとしています。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	会計の基本的な用語を，文脈に応じて適切に利用できる。	○									
目標2	小規模企業の簿記一巡の手続き（日商簿記検定初級レベル）を行うことができる。	○									
目標3	企業内部の経営者や企業外部の利害関係者の立場から，会計情報を使った初歩的な分析を行うことができる。	○									
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	イントロダクション：簿記・会計とは
2	簿記・会計の目的(1)：会計期間，貸借対照表
3	簿記・会計の目的(2)：損益計算書
4	会計報告書の作り方(1)：取引と勘定記入
5	会計報告書の作り方(2)：仕訳と転記
6	会計報告書の作り方(3)：商品売買の記帳(1)
7	会計報告書の作り方(4)：商品売買の記帳(2)
8	会計報告書の作り方(5)：現金・預金，貸付金・借入金の記帳
9	会計報告書の作り方(6)：その他の資産・負債の記帳，仕訳帳と総勘定元帳
10	会計報告書の作り方(7)：試算表の作成と月次の集計
11	会計報告書の作り方(8)：決算と貸借対照表・損益計算書の作成
12	会計情報の使い方(1)：財務諸表の構造と入手方法
13	会計情報の使い方(2)：企業外部の利害関係者による財務諸表分析
14	会計情報の使い方(3)：企業内部の経営者による経営状況の分析
15	簿記・会計と職業（公認会計士の先生を招いた講演会を予定）

アクティブラーニング			その他の工夫
A:知識の定着・確認	○	講義中の穴埋め資料，授業中の練習問題（学生間の相談や教員への質問を含む），授業後の復習課題（授業に対する質問・感想・要望の記入欄を含む）	公認会計士等の実務家を講師として招聘し，講義内講演会を実施する予定である。実際の業務に関する講演を聞くことにより，会計専門職に関する知識を習得するとともに，今後の学習意欲を高める。
B:意見の表現・交換	○		
C:応用志向			
D:知識の活用・創造			

時間外学修の内容と時間の目安		
	準備学修	配付資料や教科書等の情報を必要に応じて予習する（7h）。
	事後学修	復習課題を解く（13h）。期末試験に向けた学習を行う（15h）。

教科書

桑原知之（2022）『日商簿記3級とおるテキスト（第3版）』ネットスクール出版。
（後期の「初級簿記」の教科書としても使用します。）

参考書

桑原知之（2022）『サクッとうかる日商3級商業簿記テキスト（第3版）』ネットスクール出版。
滝澤ななみ（2024）『みんなが欲しかった！簿記の教科書 日商3級 商業簿記（第12版）』ネットスクール出版。
TAC株式会社（2023）『究極の仕訳集 日商簿記3級（第6版）』TAC出版。

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
提出課題	25%	○	○	○							
期末試験	75%	○	○	○							

注意事項

第2回目以降は毎回，電卓を持参すること。情報基盤センターの学習支援システム「Moodle」を使って演習問題の解答・解説などを配布するので，User IDとPasswordを確認しておくこと（Webメール等と同じものです）。

備考

後期の「初級簿記」とは連動するため，併せて履修することが望ましい。

リンク

URL

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
	法学入門(Introduction to Juris prudence)	学部専門基礎科目 学部専門基礎科目	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択必修	2	1	経	後期	木1	氏名　青野　篤・秋山智恵子 E-mail　aaono@oita-u.ac.jp・akiyama-chieko@oita-u.ac.jp　内線　7726・7704

授業の概要	
	法学関係の科目を学ぶための導入として、法学への興味と関心を引き出すとともに、公法・私法それぞれの分野の基礎的な事項について学ぶことをねらいとします。また国際法分野についても触れる予定です。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	個別法を学ぶにあたって必要な法学の基礎的知識を習得する。	○									
目標2											
目標3											
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容	
1	法の基礎１（社会生活における法の役割・法と道徳・法の種類等）
2	法の基礎２（法と裁判・法の解釈等）
3	憲法の基礎（人権編）
4	憲法の基礎（統治編）
5	労働法の基礎
6	国際法の基礎
7	刑事法の基礎
8	裁判員制度
9	私法の基礎
10	民法の基礎１
11	民法の基礎２
12	民法の基礎３
13	民法の基礎４
14	商法の基礎
15	民事訴訟法の基礎

アクティブラーニング				その他の工夫	
	A:知識の定着・確認	○	裁判例や具体的事件などを取り上げながら、理論的知識の定着を図ります。		
	B:意見の表現・交換				
	C:応用志向				
	D:知識の活用・創造				

時間外学修の内容と時間の目安		
	準備学修	裁判や法に関する新聞記事やニュースを見聞きする。（15h）
	事後学修	配布資料・教科書（六法）を用いて、復習する。（15h）

教科書	『法学六法'25』（信山社）（2024年9月末頃発売予定） ※受講者は、教科書販売期間中に購入して下さい。
参考書	小川富之・下田大介編著『法学ー人の一生と法律とのかかわりー』（八千代出版、2018年）

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	期末テスト	100%	○									

注意事項	他人の迷惑となる行為（特に私語）を禁止します。
備考	両担当教員が上記の内容を分担して講義します。したがって、クラスにより上記の授業内容の順番は異なります。 令和6年度（2024年度）入学生で，1年次後期から「地域経営・法コース」に所属する人は，コース必修科目となります。
リンク	
	URL

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
	地域学入門(Introduction to Regional Studies)	学部専門基礎科目 学部専門基礎科目	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択必修	2	1	経	後期	火3	氏名　宮町　良広・甲斐 智大・城戸　照子・高島　拓哉・包　聯群・美谷　薫・山浦　陽一 E-mail　ymiya@oita-u.ac.jp（宮町）, tkido@oita-u.ac.jp（城戸）, tataka@oita-u.ac.jp（高

授業の概要

経済・社会を学習・研究する際、「地域」という切り口はきわめて有効なものの１つである。本授業では、経済学部生が「地域」に関わる学習・研究を進める際に、基本として修得すべき知識や考え方、および学習方法について教授する。地域学に対する興味や関心をはぐくみ、「地域学はおもしろいな。自分もやってみよう」と受講生が思うようになることを目的とする。
各担当教員がリレー方式で講義を担当し，７人で合計１５回の授業を行う。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	地域の経済・社会・文化をとらえるための基本的考え方を理解し，説明できる。	○									
目標2	地域学のための基本的な手法やスキルを身につけ，レポート等で文章表現できる。		○								
目標3											
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	地域学は地域への好奇心から始まる（宮町担当）
2	地域学と地域活性化（宮町担当）
3	社会調査の方法（甲斐担当）
4	多様な働き方と地域（１）（甲斐担当）
5	多様な働き方と地域（２）（甲斐担当）
6	地域における多文化共生（１）（城戸担当）
7	地域における多文化共生（２）（城戸担当）
8	地域社会における社会と空間（１）（高島担当）
9	地域社会における社会と空間（２）（高島担当）
10	地域における多言語景観と多言語サービス(1)(包担当)
11	地域における多言語景観と多言語サービス(2)(包担当)
12	題目未定（美谷担当）
13	題目未定（美谷担当）
14	地域としての農村（１）（山浦担当）
15	地域としての農村（２）（山浦担当）

ラーニング アクティブ				その他の工夫
A:知識の定着・確認	○	次の項目の中から担当者が授業方式に合わせて実施する。 質疑応答と全体共有、授業終了前のミニッツペーパー、アンケート		関連文献や参考Webサイトの情報提供による調べ学習
B:意見の表現・交換	○			
C:応用志向				
D:知識の活用・創造				

時間外学修の内容と時間の目安		
	準備学修	各担当者が指示する（資料読解など、計15ｈ）。
	事後学修	各担当者が指示する（レポート作成など、計30ｈ）。

教科書	各担当者が指示する。各自でのプリントが必要な場合がある。
参考書	各担当者が指示する。

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
レポート（３課題）	100%	○	○								

各担当者が示した６つのレポート課題のうちから，３つの課題を選ぶ。分量は１課題につき1000字程度とする。合計得点６割以上で合格。指定の表紙を利用し、使用した文献・ＨＰ等の出典を明記すること。無断引用はや他人と同一のレポートは不合格とする。

注意事項	本授業は定刻開始，定刻終了します。受講生は授業開始前に着席してください。また途中退室を禁じます。
備考	担当者の順番は変わります。対面（２教室に分割）で実施します。不明な点は気軽に質問してください。各担当者のオフィスアワーを活用してください。
リンク	
URL	